

地域交通のデジタル化に向けて ～MaaS2.0の推進

2024年11月6日
全自連地域交通データ会議

国土交通省モビリティサービス推進課

地域交通のデジタル化に向けて～3つの向上

利便性

- サービスレベル
- 接続性
- アクセシビリティ …

持続可能性

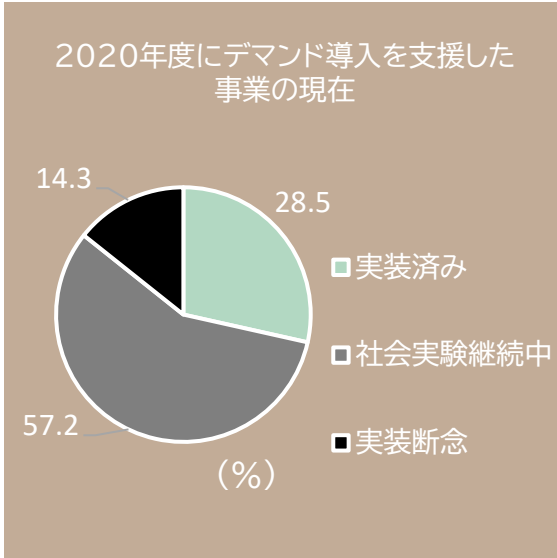
- 人口減少
- 人手不足
- 中心部における競争 …

生産性

- 業務改革
- 省力化・DX
- 事業者間連携 …

地域交通のデジタル化に向けて～課題

デマンド導入等の交通最適化のハードル



地域交通の持続可能性を高めるため、路線バスの代替交通としてデマンド導入が進められているが、利用が予想より低調等により、実証実験の支援がなくなると事業が終了する傾向。

データを用いた精緻な予測技術が必要

データ分析などDXが定着しない

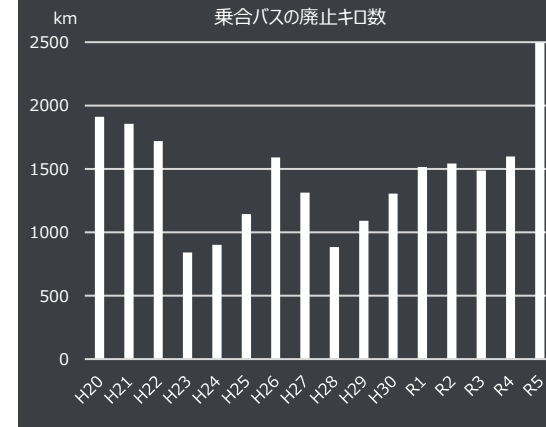


地域交通の持続可能性や生産性、利便性を高めるためにはデータ分析が不可欠だが、汎用製品の活用が大半であり、精緻な分析が難しい状況。

交通領域にフィットしたデータ分析技術が必要

面的なネットワークの最適化が急務

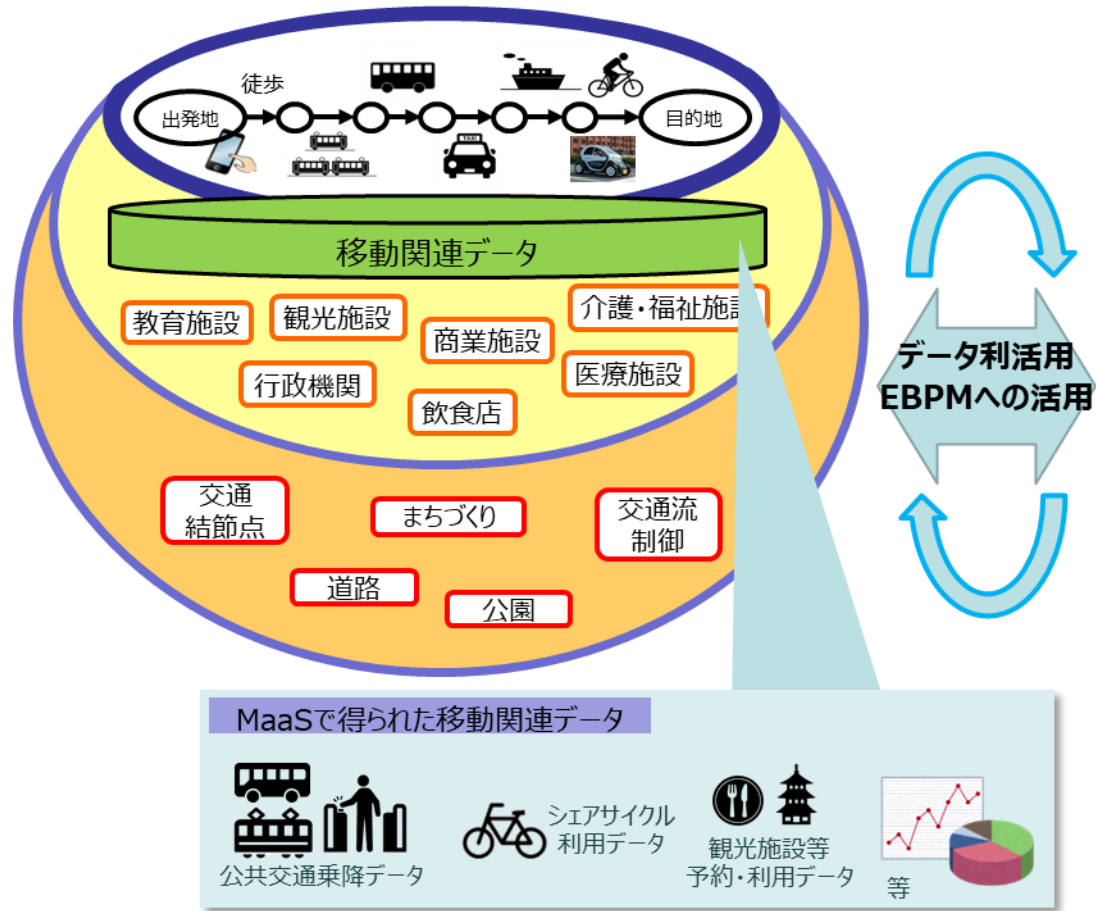
乗合バス: 計23,193kmの路線が廃止
(2008年度→2023年度)



人手不足や事業性の悪化による路線バスや地域鉄道の減便・廃止が相次いでいるが、地域全体で利便性と事業性を両立させる適正規模の地域交通を設計することは容易ではない。

データドリブンな地域交通計画の立案が必要

地域交通のデジタル化に向けて～MaaSによるデータ利活用



自治体

- 地域公共交通計画等への反映
- 公共交通の路線再編の検討（最適なサービスレベル）
- AIオンデマンド交通等の新モビリティの導入の検討
- 福祉輸送、移動医療、見守りサービス等の他分野と連携した新たな住民サービスの検討
- まちづくり、インフラ整備等の計画に活用
- 実装サービスの効果測定 等

⇒ 地域交通の最適なサービスレベルの決定に活用

民間事業者

- データを踏まえたサービスレベルの検討
- データを活用した新たなビジネス展開
- データを活用した個人へのサービス訴求 等

⇒ 持続可能なビジネスへの寄与
⇒ 新たなビジネス機会の創出

MaaSによって得られた移動関連データの活用による、
地域・個人にとっての最適な移動環境の提供

地域課題の解決

（地域や観光地の移動手段の確保・充実、オーバーツーリズムの未然防止・抑制、公共交通機関の維持・活性化 等）